

第 11 回海域小委員会における委員意見及び対応（案）

No.	資料 (小委資料 での頁)	委員意見	対応（案）
1	資料 3 P. 6	【東】 赤潮が「多い」・「少ない」の判断基準は、数字であるのか。 【滝川】 定量的に示せるところは引用文献付きで示すこと。	定量的に示せるか、検討する。
2	資料 3 表 1	【滝川】 環境特性表（表 1）は委員会報告の構成の中でどこに入っていくものなのか。各海域のサマリーとしての位置付けなのか。 表 1 は生物小委の情報をもっと追加できるように感じるので検討してほしい。	第 4 章の 2 節を意識している。これは基本的には現況を表すものである。
3	資料 4 全般	【古川】 生物と底質の調査地点は別のページに掲載されており、対応が見づらい。調査地点の重ね合わせ図を入れてほしい。	ご意見を踏まえ、調査地点の対応に関する説明書きを追記した。
4	資料 4-2	【古川】 覆砂による人為的な影響があるエリアは除外されているが、Afk-2 は除外エリアに該当しないのか確認すること。	確認する。
5	資料 4-2 P. 17-P. 18	【古川】 本文中では「地点によって泥化の変化傾向は異なっており、場所によっては増加傾向を示す地点も見られることに注意が必要」等と記載しておきながら、まとめの文章では泥化していないと断定されている。まとめを簡略化しすぎではないか。 怪しいものはどこかに残さないと次につながらない。限定句を用いてでも記載すべきである。	ご指摘を踏まえ、泥化の変化傾向を確認したそれぞれのケース別にまとめを記載する。

No.	資料	委員意見	対応（案）
6	資料 4-2 P. 4, 5	<p>【山口（啓）】 軟体動物の急激な増加はホトトギスマットが形成されている可能性がある。こういったことは環境上で重要なので特筆すべきである。 また、表 2 中、種ごとに記載されているものもあれば、「イガイ科」など分類が広すぎる。</p> <p>【滝川】 特筆する増減については他の環境特性と併せて考察すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・船上からの採泥のため、ホトトギスマットの形成の有無は確認できない。 ・イガイ科に関するご指摘については、同属の各々の種の同定が困難であったことから、科として経年データを継続して取りまとめている。 ・他の環境特性と併せた考察については、適宜御意見をいただきたい。
7	資料 4 全般	<p>【松野】 有明海では、A 5、A 6 海域がキーとなる。 海域区分毎に区切って整理されているが、隣の海域からの流入については具体的に検討されるのか。 例えば、泥化は粒子の変化であって、これはどこからか運ばれてきているはずであり、どこからどのように運ばれてきたのか分からないと再生につながらない。やはり隣接海域からの流入については 5 章ではなく、4 章に記載すべきである。 モデルは予測だけでなく、現況データを解釈する、わからないところを補完するという立派な利用方法がある。</p> <p>【滝川】 全域ではわかりにくいから海域に区分して整理するが、全域の問題の認識が大前提としてあるはず。 隣接海域からの流入など、データの無いところを補間することにモデルは利用できる。そうでないと対策も取れないというご指摘ではないか。</p> <p>【古川】 現地のデータだけで閉じることができるかわからないが、今回は資料から落ちている引用文献もみながら、モデルがなくても整理できるか要検討である。</p>	<p>各海域間の懸濁物収支等についてモデル計算を行い推定したい。このモデル計算がどのように利用可能かを含めて検討する。</p>

No.	資料	委員意見	対応（案）
8	資料 4-2 P. 13-15	<p>【東】 人為的な覆砂の影響があるという粒径加積曲線のイメージがつかない。 加積曲線の急激な変化は元々粗いところに常に動いている細かいものが堆積した場合にはありえる現象と考える。</p> <p>【滝川】 覆砂をしていない地点の通常に加積曲線も掲載し、比較できるようにすべき。</p>	<p>ご指摘を踏まえて検討する。</p>
9	資料 4-2 P. 12	<p>【清水】 覆砂影響範囲を解析対象から除外されているが、覆砂がどういう目的で、いつ、どのくらいの量がなされたのかどこかに明記すべきである。河川からの土砂供給の観点からも重要である。</p> <p>【滝川】 土砂供給の記録を残しておくべき。</p>	<p>もともとは、底質の変化傾向を見たかった。人為的なものは除外が適当とし、そのエリアを特定する際の参考として添付した。 ご意見を踏まえ、近年の覆砂の量について記載する。</p>
10	資料 4-7 P. 9	<p>【古川】 A7 海域の底質は 3 地点で A 6 海域に近いところとそれ以外で、異なる特性を示している。そもそもクラスターで区分しているが異なっているので、小区分をつくるなどもう少し工夫が必要のように思える。</p> <p>【東】 クラスターではこのように区分されて、実際は少し違うといったことを明示してはどうか。</p>	<p>クラスターの解析方法・結果については資料 3 に記載している。 小区分については、再生への取組の方向性を見出すため、特に必要な場合に検討したい。</p>
11	資料 4 全般	<p>【山口(啓)】 ベントスの個体数で主要種を決めて記載されているが、これでは種の変遷を見ることは難しい。また、個体数が急増しているところで、動物門だけでは具体的に何が増えたかわからない。イガイ科が主要種とあるが区分としてざっくりしすぎている。もう少し精査が必要ではないか。</p>	<p>ベントスの経年変化については、種類数の推移を確認するとともに、主要種の変化傾向についても考察している。 なお、出現主要種の表における区分に「イガイ科」と記載しているのは、調査の段階で種の同定が困難であったため区分できなかったことによる。</p>

第 11 回海域小委 委員意見及び対応（案）

No.	資料	委員意見	対応（案）
12	その他	【清水】 希少生物についての取り扱いはどうされるのか。いつかの委員会で一度議論があったように記憶している。	18 年報告でも示している有用二枚貝やベントス、ノリの色落ち、魚類について重点的に考察を行う。 希少生物についても、参考とすべきデータ等がないか検討する。
13	資料 4 全般	【東】 各海域の記述のまとめのグルーピングがあればよい。全文を読まないといけないと分からない。	各海域のまとめの作成について検討する。
14	資料 4 全般	【古川】 文中にある「 ¹⁾ 」等の表記は、文献番号を指しているものと思うが、この中に要因解明のきっかけがあるのではないか。	文献等の出典については全て掲載する。